

豊かな言語感覚を育む「書くこと」領域における学習指導
～「視点」を基に相互に検討する学習を通して～

福島市立平野中学校 教諭 渡邊 潤平

1 研究の趣旨

実践校における生徒の実態分析から、書いて表現する力に課題があることが明らかになった。書いて表現することにおいては、自分の思いやイメージと向き合い、どのような表現にすればそれが相手に伝わるかを自ら考えることが大切となる。そこで、「書くこと」領域における創作活動を通して、言語感覚を働かせ、表現を吟味する過程の実現を目指し、研究を進めることとした。

第一年次の実践では、適切な言葉や効果的な「視点」^{※1}を吟味し、自分の思いやイメージを豊かに表現することを目標として、「優れた描写を吟味する」「工夫して描写する」「表現した描写を検討し合う」という三つの学習の段階を設け、短歌と物語の創作活動を行った。この創作活動を通し、生徒の多くが、自分の思いやイメージに合った言葉を選んだり、「視点」を使ったりして表現することができるようになった。しかし、単元の中で、生徒自身が選択した表現について友達に伝わったかどうか吟味する活動を効果的に位置付けなかったため、実践後の意識調査において、相手意識が不十分であるという結果が出た。そこで第二年次の実践においては、自分の思いやイメージを読み手により正確に伝える意識をもたせることに重点を置き、以下に述べるような仮説を設定し、本主題に迫った。

※1「視点」…情景描写、心情描写、人物・行動描写、擬音語、擬態語、押韻、比喩、倒置法、視覚・聴覚・触覚・嗅覚・味覚に訴える表現の工夫のこと。

中学校国語科の「書くこと」領域において、以下の手だてを講じれば、自分の思いやイメージを読み手により正確に伝える意識を伴った豊かな言語感覚が育まれるだろう。

【手だて1】「視点」を見いだす学習活動

【手だて2】相互に検討する学習活動

2 研究の概要

(1) 【手だて1】『視点』を見いだす学習活動について

「視点」のよさに気付かせたり、読み手に与える効果を実感させたりしながら、生徒に「視点」を意識させることが目的である。具体的には、「視点」が使われている作品と使われていない作品を、または、同じ「視点」が使われている作品同士を比較させながら、「視点」を見つけ、効果を話し合う活動を行った。

(2) 【手だて2】「相互に検討する学習活動」について

自分の伝えたいイメージをより正確に伝えるための適切な言葉や効果的な「視点」を吟味させることが目的である。具体的には、創作した短歌や物語の表現について、作者と読み手との間でイメージを伝え合い、表現を吟味する活動を行った。

3 成果と今後の課題

(1) 研究の成果

① 手だて1『視点』を見いだす学習活動によって、表現のよさや効果を実感させながら、「視点」を獲得させることができた。先輩の書いた短歌や物語の提示が、生徒の書く意欲の向上につながった。

② 創作する短歌や物語の中で、獲得した「視点」を使って自分の思いやイメージを表現しようとする生徒の姿が見られた。

③ 自らの表現の意図を記述することができるようになった。

(2) 今後の課題

手だて2「相互に検討する学習活動」で行った、友達に新たな表現の提案をするということは、多くの生徒にとって困難な課題であった。今後は、創作した作品を生徒同士で読み合う場面において、表現から読み取れるイメージを伝え合う活動を取り入れたい。